

～各学年主任からのメッセージ～

1年（渡邊健先生 教科：体育科 部活動：サッカー部）

こんにちは、学年主任の渡邊です。1年生の1学期も終わり、すっかり佐商生になってきたのではないのでしょうか。4月初めの挨拶でみんなに話した言葉を覚えていますか？1年生のキーワード「やる気」「根気」「元気」です。

今の自分を振り返ってみて、勉強・部活・検定・学校行事にやる気を持って積極的に取り組んでいますか。高校生になってはじめてしたこと、または今までやってきたことを継続できていますか。そして毎日元気に過ごしていますか。登校していますか。ひとつでも「あっ」と思うことがあるならもう一度自分自身と話をして下さい。信頼できる大人と話をして下さい。まだまだ十分に取返せます。

入学当初の新鮮な気持ちを大切にしましょう。「輝かしい高校生活を送るために」

2年（宮本孝浩先生 教科：商業科 部活動：報道部）

生徒諸君勉強をしよう。この言葉を聴くと、諸君の中にはなぜ勉強をせよというのか腑におちない人もいるだろう。勉強せよといわれるとうるさく思って、「勉強をするもしないのも私の自由だ」と抗弁して、かえって勉強する意欲をにぶらせる人もあるかもしれない。そのような諸君は本当に勉強が自分自身にどんなに必要なことであるかが、よく解っていない。私たちは人間に生まれた。人間は万物の霊長で、生きとし生ける動物の中で最も優れた智慧を持っている。物事を考えて判断する能力は他の動物には見られない。

人間に生まれた以上、人間らしい生き方をしなければならない。人間としての値打を発揮することに努めることが大切である。このことを人格が完成するというが、この目的に向かって人間は一生努力しなければならない。すなわち広い知識を求め、物事を正しく判断する能力を養い、仕事に励み、社会に貢献することが、一生を通しての念願である。人格の完成上、正確な知識を持つことが不可欠である。知識がないと、人の一生や世界のあり方、正しい見方ができない。間違った判断は不幸をまねく場合が多々ある。個人が知識を広く深く持ち、その個人の集まった社会の知識も高まり文化程度も上がってくる。人間の寿命には限りがあり宇宙の悠久に比べたらほんの一瞬だ。私たちの求めたい知識は無限であるのに、限りある人生であるから、人間はどんなに努力しても十二分だという限界はない。人間が死ぬ瞬間まで修業が必要であると改めて考える。今を貪欲に、勉強の必要性を自覚して、人からすすめられるまでもなく、自発的に勉強するようになれば、毎日の学校生活が楽しくなってくる。真の学校の愉快は、仲のよい友だちと交流するときと、学習がよく理解できたときだ。何学科でも理解できればそこに興味がわき、希望がでてくるものである。真の喜びは努力が報われたときと考える。最後に、常に未来に明るい希望をいだき、ひたすらにコツコツと努力することが幸福への近道と信じる。

3年（中村幸一先生 教科：音楽科 部活動：吹奏楽部）

1学期も終わり3年生にとってはよいよ「勝負の時」がやってきます。進路実現のために今やるべき事は何なのか？それぞれの希望する進路を見据えて備えて下さい。

定期考査、各種検定も大切ですが、面接試験対策にも万全を期すこと。実際に成績は良くても面接で不合格になった先輩たちが何人もいます。日常生活から自分自身を見直し、改善すべき事は積極的に改善しましょう。指摘される前に「自分で気づく」ことが大切です。

何事も「意識する」ことから始まります。常に意識して行動する。その行動が習慣化されれば人格の形成となります。まだまだ若い君たちはいくらでも変わる事ができます。ぜひ今の自分を見つめ直してみてください。

コミュニケーション力、積極性、協調性、誠実さ、忍耐力等々・・・確かに重要ですが、「自分で考えて行動できる人」は現代企業からも強く求められているのです。

3年生諸君、希望進路実現のために最大限の努力をして下さい、がんばれ！



次回は8月28日（金）発行予定です。